

プロスポーツや世界大会等で活躍するトップアスリートは、私たちにいつも勇氣や希望を与えてくれる。特に子供たちにとって、トップアスリートは夢の世界の存在であり、いつの時代も憧(あこが)れの的である。その言動は親や先生よりも子供たちの心に響くかもしれない。それだけトップアスリートは影響力のある存在なのである。

あるスポーツ指導者からこのような話を聞いたことがある。「プロスポーツがわが街にあることは、地域スポーツの活性化になる。しかし、子供たちは私たちの言うことを聞くより、茶

SPORTS MUST CHANGE

谷塚 哲



髪でロン毛、髭(ひげ)をたくわえ、ガムをかんでいるプロ選手に憧れる。私たちが今まで教えてきたスポーツを否定されているみたいで……。そう考えると素直にプロスポーツを応援できないですよ」

髪でロン毛、髭(ひげ)をい。茶髪でロン毛が一般社

は一握りに過ぎない。日本にそういった環境が少ないのが一番の原因である。彼らは世界大会等に公的なお金を使って参加していることもある。公的なお金を使っている以上、トップアスリートはメダルをとること

セカンドキャリアに生かしてほしい。もし、まったくスポーツに関係のないセカンドキャリアを目指すならば、せつかくの貴重な経験やお金は無駄になってしま

社会への還元必要

これは決して茶髪やロン毛自体を否定しているわけではないし、プロスポーツだから個性があつていいじゃないかという考え方も当然である。しかし、そのスポーツの常識と人間形成の常識は必ずしも一緒ではな

てないはずである。その姿形、行動、発言等も注目されている。そこにトップアスリートとしての価値が求められるのである。

引退後にスポーツにかかわるセカンドキャリアを送ることのできるアスリート

「自らの経験をスポーツ界に還元する。結果、日本スポーツ界の発展につながる」。こういった循環型スポーツ構造をしっかりと確立していくことが、アスリートへの価値の向上につながり、そしてトップアスリートによる一番簡単な社会への恩返しなのである。

(REGISTA 責任事業 組合代表)

隔週土曜日掲載